

令和2年度
印西市民アカデミーだより
 ぶらす
 第9号

印西の石造物 -その3-

印西市内には、たくさんの庚申塔を建て、より多くの功德を得ようとした「百庚申(ひゃっこうしん)」が、浦部、小林、武西、松虫、笠神の5か所(千葉県内41か所)に残っています。



《浦部》天保10年(1839)に造立された刻像塔10基と文字塔90基と弘化4年(1847)に造立された大きな塔「中尊」1基からなっている。県道市川印西線の旧西印旆農協泳治支所近くの道路に並んでいる。



《小林》天保元年(1830)から明治にかけての造立で、文字塔が98基確認されている。西福寺近くの猿田彦神社にある。寛文11年(1671)に造立された四臂の青面金剛像塔がある。



《武西》文久3年(1863)の造立で、刻像塔10基と文字塔90基からなっている。文字塔9基おきに刻像塔1基を配置している。東京電機大学千葉ニュータウンキャンパスの近くの公園内にある。



松虫



杉自塚

《松虫》多石百庚申(たせきひゃっこうしん)の先駆けて、文政12年(1829)の造立。青面金剛像塔のみ100基を松虫寺入口付近とその先の杉自塚周辺の二か所に分かれて配置されている。



笠神社



蘇羽鷹神社

《笠神》南陽院近くの笠神社と蘇羽鷹(そはたか)神社にある。笠神社には、慶応元年(1865)に造立された刻像塔18基と文字塔82基が、蘇羽鷹神社には、刻像塔6基と文字塔54基が配置されている。